２０１９年５月２９日
株式会社ベネッセスタイルケア

㈱ベネッセスタイルケアとライオン㈱の共同調査
高齢者介護施設における口腔ケアに関する調査結果を発表
「教育」「歯科医師との連携」「ご入居者への働きかけ」が口腔ケアの質を上げる

株式会社ベネッセスタイルケア（代表取締役社長・滝山 真也）と、ライオン株式会社（代表取締役社長・掬川 正純）は、高齢者介護施設で働く職員 2,646 人を対象に、施設で実施している口腔ケアに関するアンケート調査を実施しました。その結果、介助業務の中で「口腔ケア」は「専門的な知識や技術が必要」と感じる業務の１位（49%）に挙げられました。

さらに職員・ご入居者の観点から分析した結果、高齢者施設で口腔ケアをより充実するには、①「口腔ケア」についての専門的な知識とスキルについての職員への教育②訪問歯科医との連携の強化③職員およびご入居者本人への啓発が重要であることが見えてきました。

＜調査結果概要＞　※　詳細は調査結果をご参照ください。

1. ご入居者の口腔ケアに対する職員の意識

・83%の職員がご入居者の健康維持のために「口腔ケア」が重要と捉えており、**86%の職員が「もっと力を入れて取り組みたい」と考えている。**

・介助業務の中で、**「口腔ケア」は、「専門的な知識や技術が必要」と感じる業務の1位**（49%）に挙げられた。また、口腔ケアに関して学びたい知識スキルとしては、「口腔内の状態別のケア方法（63%）」「誤嚥性肺炎の予防方法（56%）」「ケア用品の効果的な使い方やコツ（51%）」が挙げられ、これらの習得の機会が求められている。

2. 職員が感じる口腔ケアの課題

・「歯や口の中がきれいになったのか、どういう状態がゴールなのかわからない」という課題が最も多く挙げられており、**知識や経験に頼らずに口腔ケア完了の判断ができるわかりやすいマニュアルや基準が求められている**ことが示唆された。

・職員が口腔ケアの介助をしていないご入居者についても、「歯や義歯に食べ物などの汚れがついているように感じる（70%）」等の理由から、55%の職員が「課題がある」と感じている。

3. 口腔ケアに関する課題解決のヒント

・施設に定期的に訪れる歯科医師の指導をケアプランに反映できていると答えた職員は、口腔ケア時に実施する口腔状態のチェック項目が多い傾向がみられ、**訪問歯科医との連携強化が口腔ケアのレベルを向上させる**ことが示唆された。

・自身の口腔衛生に対する意識が高い職員ほど、ご入居者の口腔ケア時に実施する口腔状態のチェック項目や使用している用具の数が多く、職員の個人的な口腔衛生に関する知識や経験が、ご入居者に実施する口腔ケアの内容に影響することが推察された。口腔ケアの技術的な教育とあわせて、**職員本人の口腔衛生意識を高める教育も重要**であることが示唆された。

・ご入居者に対して「ケアの方法の伝え方を工夫する」「繰り返し口腔ケアの重要性を伝える」等の働きかけをすることで口腔ケアに協力的になり、口腔内の症状も改善される事例が報告された。**ご入居者自身が積極的に口腔ケアに取り組みたくなる啓発や伝え方の工夫が有用**であることが示唆された。

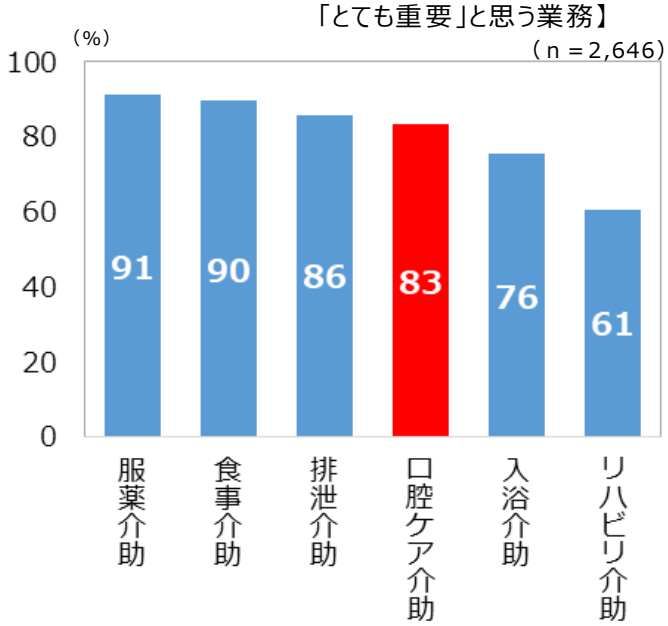
■調査結果

1．口腔ケアに対する職員の意識

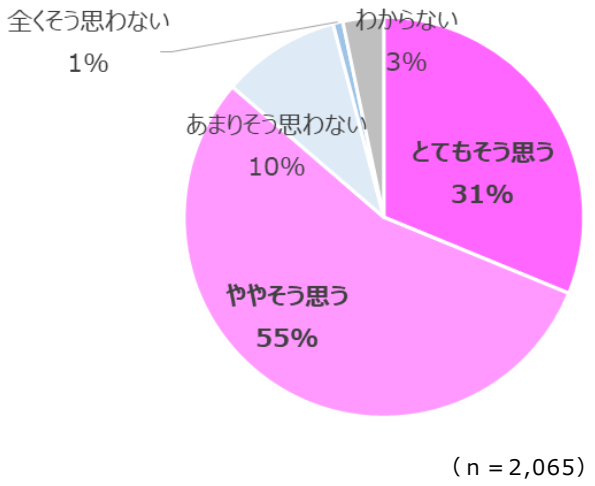
「口腔ケア」を重要な介助の 1 つと認識しており、「もっと力を入れて取り組みたい」職員は 86%

ご入居者の健康維持のために「とても重要」だと思う業務について聞いたところ、83%の職員が「口腔ケア」を重要と回答し、服薬、食事、排泄などの生命維持に不可欠な介助に次いで高い結果となった（図1）。また、口腔ケアの実施者（全職員の 78%）に口腔ケアに対する意識を聞いたところ、86%の職員が「もっと力を入れて取り組みたい」と回答した（図2）。

【図１：ご入居者の健康維持のために「とても重要」と思う業務】



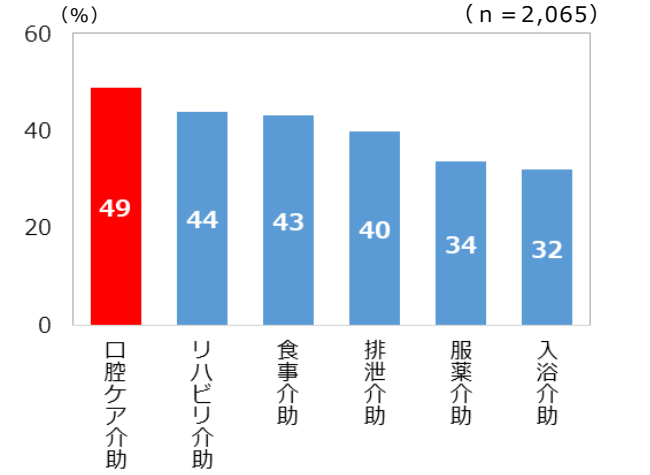
【図２：口腔ケア意識】「口腔ケアにもっと力を入れて取り組みたい」



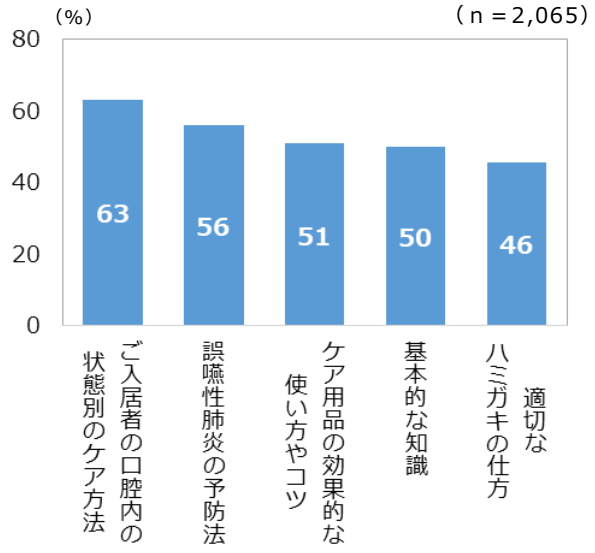
より専門的な「口腔ケア」の知識やスキルについての教育が求められている

介助業務の中で、「口腔ケア」は、「専門的な知識や技術が必要」と感じる業務の 1 位（49%）に挙げられ（図3）、口腔ケアについて学びたい知識・スキルとして「口腔内の状態別のケア方法（63%）」「誤嚥性肺炎の予防方法（56%）」「ケア用品の効果的な使い方やコツ（51%）」が多く挙げられた。このことから、口腔ケアについてはより専門的な知識やスキルを習得する機会が求められていることが明らかになった（図4）。

【図３：専門的な知識・スキルが必要な介助（MA）】



【図４：口腔ケアに関して学びたい知識・スキル（MA）】

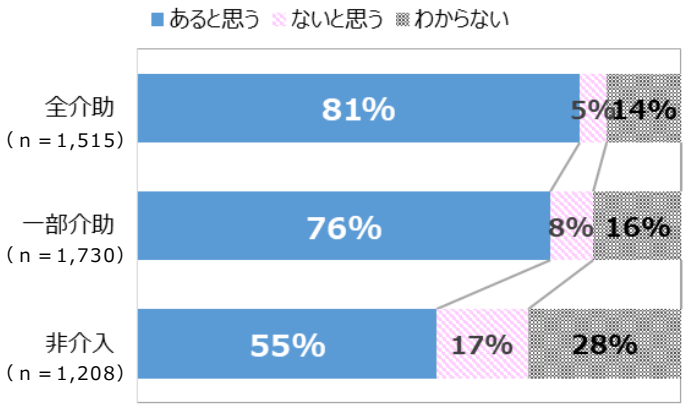


2. 職員が感じる口腔ケアの課題

本調査では、ご入居者の口腔ケアへの介助内容に応じて以下の 3 つのグループに分け、それぞれの課題について聴取を行った。

« 全介助 » ご入居者本人はお口のケアを全く行えず、職員が全て介助する
«一部介助» 歯みがき、義歯の洗浄などのお口のケアの一部を職員が介助する
« 非介入 » ハミガキ、義歯の洗浄などのお口のケアをご入居者自身が行い、職員は介助しない（声かけや道具を渡すことはある）

【図 5 ：口腔ケアについての課題感の有無】



介助内容に関わらず、職員は「口腔ケア」に課題があると感じている

ご入居者の口腔ケアの介助内容に応じて課題の有無を聞いたところ、全介助・一部介助のご入居者については約8割の職員が、非介入のご入居者についても約半数の職員が「課題がある」と回答した（図 5）。

全介助・一部介助 共通の課題：口腔ケアのゴールがわからない

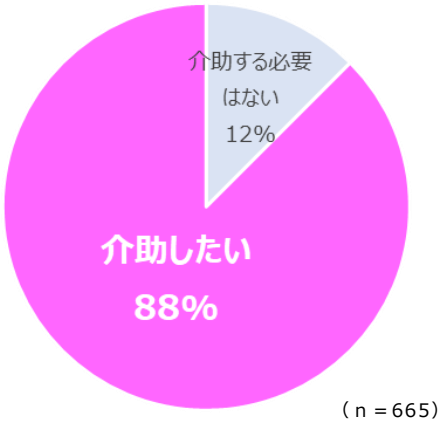
全介助・一部介助の口腔ケアの課題としては、「歯や口の中がきれいになったのか、どういう状態がゴールなのかわからない」が最も多く挙げられた（全介助 62%、一部介助 59%）。知識や経験に頼らずに口腔ケア完了の判断ができるわかりやすいマニュアルや基準が求められていることが示唆された。また、半数の職員からご入居者の口腔ケアがしづらい場合があることが課題として抽出された。被介護状態にない人でも気分が乗らないことがあるように、ご入居者においても体調や気分によってケアを受けたくない状況があることが伺えた。根気よく声かけを行ったり、タイミングをずらしたり、と現場では様々な工夫をこらしている様子であった。

非介入の課題：ご入居者本人のやり方に任せるだけでは、口腔内の清潔維持が困難

職員が口腔ケアに介入していない「非介入」のご入居者について「課題がある」と回答した職員を対象に、非介入者への口腔ケアについて聞いたところ、88%が「口腔ケアの介助が必要」と回答し、その理由として「歯や義歯に食べ物などの汚れがついているようだから（70%）」が最も多く挙げられた（図 6、7）。

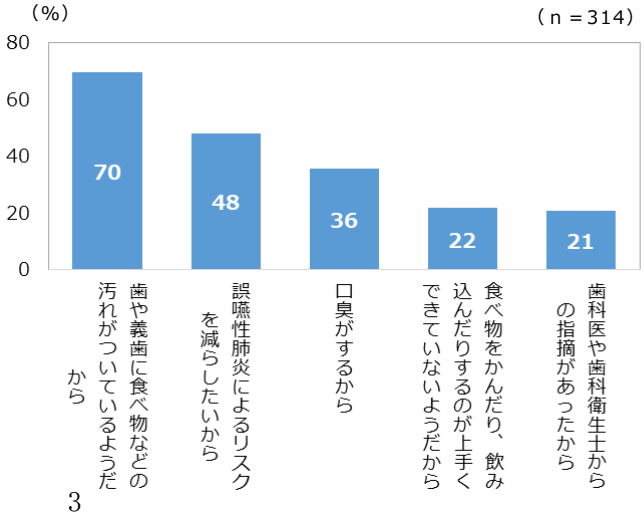
口腔ケアを自身で行えるご入居者でも、高齢ゆえに手先の巧緻性や認知機能に衰えがみられることが多く、従来どおりの本人のやり方だけでは十分に口腔内を清潔にできていない事がうかがえる。

【図 6：非介入の方にも
口腔ケアの介助をしたいか】



（n＝665）

【図 7：介助が必要と思う理由（MA）】



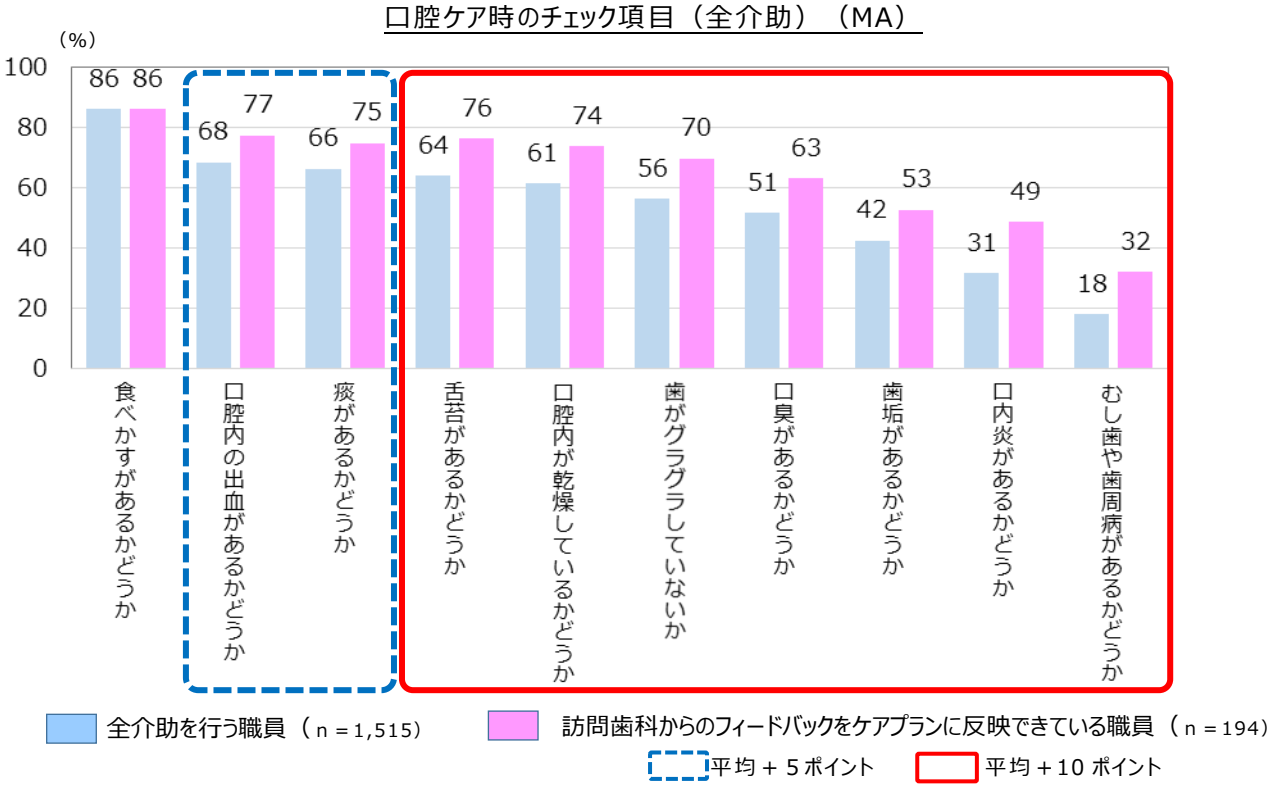
口腔内に食べ物等の汚れが長時間溜まることで、歯肉炎やむし歯などの口腔トラブルのリスクが高まることから、非介入者にも仕上げみがきなどの職員による介助が必要と思われるが、一方で、本人の「自立」の意識を尊重し、出来る限り「自分でできる口腔ケア」のレベルアップを図る工夫も肝要と思わる。

3. 口腔ケアに関する課題解決のヒント

訪問歯科医師との連携が取れている職員は、口腔ケアの内容がより充実している

全介助を行う職員（1,515 名）のうち、施設に定期的に訪れる歯科医師の指導をケアプランに反映できていると答えた職員（194 名）は、口腔ケア時に実施する口腔状態のチェック項目が多い傾向がみられ（図 8）、訪問歯科医との連携強化が職員の口腔ケアのレベルを向上させる可能性が示唆された。

【図 8：訪問歯科医師との連携が取れている職員の口腔ケア】



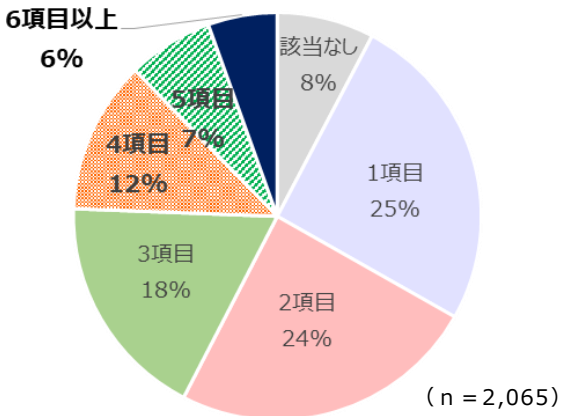
自身の口腔衛生意識が高い職員ほど、ご入居者の口腔ケア時に実施する口腔状態のチェック項目が多い

口腔衛生に関する 8 つの項目の該当数により、職員本人の口腔衛生意識のレベルの高さを選別した（図9）。さらに職員の口腔衛生意識レベル別に、ご入居者について実施している口腔ケアの内容を分析した結果、自身の口腔衛生に対する意識が高い職員は、ご入居者への口腔ケアに対しても意識が高く、実施状況もよい傾向が見られた（図 10）。このことから、職員自身の口腔衛生意識を高めることで、ご入居者に実施する口腔ケアにも良い影響を与えられることが示唆された。

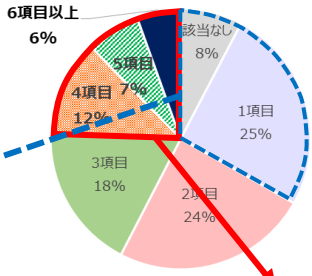
【図 9：職員自身の口腔衛生意識レベル】

＜口腔衛生意識チェック項目＞

1. ハミガキ粉やハブラシは機能や効能で選ぶことが多い
2. 歯間清掃用具（歯間ブラシやデンタルフロスなど）を定期的につかっている
3. 1 日 3 回以上歯をみがいている
4. 歯科医からの健診（むし歯チェック、歯石除去、クリーニングなど）は年に 1 回以上受けている
5. 洗口剤やマウスウオッシュを定期的に使っている
6. 歯周病と糖尿病との関連性を知っている
7. お口のトラブルにはしっかり対処できていると思う
8. お口のケアには自信がある



【図 10：職員自身の口腔衛生意識レベルとご入居者の口腔ケア内容】



N=2,065／口腔ケア担当ありベース	あてはまるものはない(0項目)	1項目選択	2項目選択	3項目選択	4項目選択	5項目選択	6項目以上選択
ケア項目・用品数	少	少	少	中	中	多	多
チェック項目数	少	少	少	中	多	多	多
力をいれたい度合	低	中	中	高	高	高	高
学びたいこと	基本的な知識から	基本的な知識から	—	現場で活かせるケア方法やコツ	口腔ケアと健康の関係といった応用知識も	口腔ケアと健康の関係といった応用知識も	学ぶ意欲が高く、幅広くまんべんなく

ご入居者への働きかけの工夫が口腔ケアの質向上につながる

「ご入居者の口腔ケアにおいて成功したと思う事例」について、自由記述式で聴取した結果、「ケアの方法の伝え方を工夫する」「繰り返し口腔ケアの重要性を伝える」等、ご入居者への働きかけに工夫をすることでご入居者自身が口腔ケアに協力的になり、口腔内の症状も改善される事例が報告された。このことから、職員の教育とともに、ご入居者自身が積極的に口腔ケアに取り組みたくなる啓発や伝え方の工夫が口腔ケアの質を高めるために有用であることが示唆された。

【口腔ケアに関する成功事例（自由記述）】

・口腔ケアに消極的なご入居者用の口腔ケアのやり方の紙を歯科の先生よりいただき、居室の洗面所に貼ったところ、歯肉炎の腫れも消え、今では、口腔内の口臭や舌苔もなくなり、歯科の先生に褒められた。

・いままで口腔ケアが苦手だった方にイラスト等用いて説明し、ご自身でやっていただくようになったことで、徐々に口内衛生がよくなってきている。

・口腔ケアに消極的なご入居者に医療的根拠を伝えると納得して頂きやすい。

・口腔ケアの方法を直接歯科医に習い、他スタッフが実践できるよう写真付きでやり方をスタッフルームに貼った。他のご入居者にも上記のやり方を実践して、歯科医から綺麗になったと褒められるようになった。

【調査概要】

・調査期間　：2018 年 11 月 28 日～2018 年 12 月 19 日
・調査方法　：Web 調査
・調査対象　：株式会社ベネッセスタイルケアが運営する有料老人ホームの職員　2,646 名
（男性：814 名、女性 1,832 名）

以　上

お問い合わせ窓口
ベネッセ シニア・介護研究所 事務局（吉田・猪又） 03-6836-1075